

令和2年度1月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和3年1月6日(水) 午前11時00分～11時55分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ7社

会見内容

1. はじめに(2項目)

1. 新年の挨拶

- 新年あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願いいたします。
- 昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、これまでの市民生活や経済活動が一変し、11月には、釧路市の基幹産業として一翼を担う、日本製紙株式会社釧路工場に係る重大なニュースが流れるなど、大変厳しい一年となりました。
- このように厳しい環境の状況でありましたが、年末には、創設2年目の「北海道クレインズ」が、全日本アイスホッケー選手権大会で初優勝を飾るといった明るい話題もあったところでもあります。アジアリーグアイスホッケージャパンカップ2020との「2冠」に向けて、引き続き、市民の皆様と共に応援をしてみたいと思います。
- 令和3年度につきましては、本市では初めて義務教育学校である「阿寒湖義務教育学校」が開校するほか、「GIGAスクール構想推進事業」により、小中学校における児童生徒一人1台端末体制での教育活動が始まることとなります。
- 次代を担う子どもたち一人ひとりの可能性を最大限に引き出せるよう、充実した教育が実現できる環境づくりに引き続き努めてまいります。
- また、東京オリンピック・パラリンピックに向け、6月に行われる「オリンピック聖火リレー」のほか、ベトナムパラリンピック選手団の直前合宿を受け入れる予定となっており、ホストタウンとして、選手や関係者の皆様の活躍を、応援してみたいと考えております。
- この他に、9月には北海道を舞台にアドベンチャートラベル・ワールドサミット2021が開催されます。本市においても、サミット前の1週間、アドベンチャー体験ツアーで釧路市の豊かな自然や文化を満喫するため、世界中からお客様が訪れる予定となっております。
- 市民の皆様には、引き続き感染予防へのご協力をお願いいたしますとともに、感染拡大防止と経済活性化の両立を目指し、さまざまな施策に取り組みながら、着実にまちづくりを進めてまいりたいと考えております。
- 本年も皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2. 新型コロナウイルス感染症について

- まずは、新型コロナウイルス感染症の現況について報告させていただきます。
- 釧路総合振興局管内では、市民の皆様が感染予防をしっかりと行っていただいております。昨年12月24日以降、13日間感染者が出ていない状況であります。あわせて、11月に発生しておりましたクラスター5件につきましても、全て収束となっております。関係者の皆様、事業者の皆様のご協力に感謝申し上げます。
- 医療体制の関係につきましては、軽症者向けの宿泊療養施設が12月25日に開設され、こちらには120床の病床が確保されているということでもあります。
- 改めて、このような状況の中でも、しっかりとした医療体制をとっていただいております。医療関係者の皆様、また保健所の皆様にも、深甚なる感謝を申し上げます。
- ウイルス自体が世の中から無くなる訳ではありませんので、市といたしましては、引き続き、感染防止対策に取り組んで参りたいと考えております。

2. 話題提供（1項目）

1. 「アイヌ古式舞踊」の演出リニューアルについて

- 「アイヌ古式舞踊」の演出リニューアルについてです。
- 阿寒湖アイヌシアター「イコロ」で公演されている、ユネスコ無形文化遺産登録の「アイヌ古式舞踊」が今年1月19日（火）から演出をリニューアルし、公演をスタートいたします。
- このたびの取り組みは、国のアイヌ政策推進交付金を活用し、釧路市と阿寒アイヌ工芸協同組合が連携協力して進めているものであります。
- 今回の演出リニューアルのポイントは、大きく2つあり、1つ目は、ナレーションで、アイヌ民族の儀式や、大切にしているカムイ（神）について語るなど、これまでの公演とは異なり、ストーリーに沿った内容とした点です。
- 2つ目は、アイヌ民族の祭具である「イナウ」をそのストーリーの中心に据えた点です。
- 火・水・土・風・太陽を司る5つのカムイを祭る「イナウ」をそれぞれ制作し、それぞれのカムイと関わりのある「アイヌ古式舞踊」を披露していく内容となっております。これまで以上にアイヌ文化を深く知る機会になるものと考えております。

3. その他（1項目）

1. 「阿寒湖氷上 カムイへの祈り～カムイコオリパク～」の開催について

- 続いて、「阿寒湖氷上 カムイへの祈り～カムイコオリパク～」の開催についてです。

- 夏に開催された「カムイへの祈り～カムイコオリパク～」に続き、来月2月1日（月）から3月2日（火）までの毎日、午後7時30分から阿寒湖温泉で、「阿寒湖氷上 カムイへの祈り～カムイコオリパク～」が「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」事業の一環として、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構の主催により開催されます。
- イベントの趣旨には、夏の開催と同様に「新型コロナウイルス感染症の収束」と「医療従事者への感謝」が掲げられ、今回も医療従事者への募金活動も実施されます。
- イベント内容といたしましては、会場入口から「厄除けのタイマツ」を持ってタイマツ行進をした後に、アイヌ民族の男性によるデジタルアートを融合した「カムイへの感謝」の祈りをささげる火の儀式で、新型コロナウイルス感染症の収束などを一緒に祈っていただきます。フィナーレには、花火の打ち上げを行います。
- あわせて、開催期間中には、釧路市阿寒湖温泉出身の漫画家 板垣 恵介先生のご協力のもと、人気漫画「グラップラー刃牙（ばき）」のキャラクターと一緒に記念撮影をすることが出来るARスポットが阿寒湖温泉内に9カ所設置されます。
- すべてのARスポットのスタンプを集めると、先着200名に、板垣先生が書き下ろした原画のグッズがプレゼントされます。

4. 質疑要旨

(質問)

- ・ 板垣恵介先生の「グラップラー刃牙」のARスポット9箇所では、それぞれ違う写真が撮れるということでしょうか。

(観光振興監)

- ・ そのとおりです。それぞれのARスポットにおいて、板垣先生の原画を基にした9種類の写真を撮っていただける形となっております。場所は、温泉街をほぼ全域にわたって9カ所点在しており、そちらを周遊していただく形となっております。

(質問)

- ・ 板垣先生に協力を求めたのは、「カムイコオリパク」冬バージョンの実施を決定するタイミングで求めたということでしょうか。

(観光振興監)

- ・ それより以前に開催していた原画展等で板垣先生からご協力をいただいております。その流れで、今回はARを使いながら、皆様に触れていただく形となっております。なお、ARスポットの地図等は、今後、ホームページにアップする予定です。

(質問)

- ・ グラップラー刃牙のARスポット巡りと、「カムイコオリパク」は同時期の開催ですが、「カムイコオリパク」に参加している人のみが参加可能ということでしょうか。それとも、それぞれ別に参加することができるということでしょうか。

(観光振興監)

- ・ 一番望ましいと考えているのは、「カムイコオリパク」と共にどちらにも参加していただくということですが、ARスポット巡りのみでもお楽しみいただけるようになっております。

(質問)

- ・ 「カムイコオリパク」の内容説明で男性によるデジタルアートと融合したカムイへの感謝とありますが、具体的にどのようなイメージのものか教えてください。

(観光振興監)

- ・ イメージといたしましては、氷上に設けたステージにデジタル映像を投影しながら、それを背景として、アイヌ民族のエカシ（長老）の方に火の儀式を行っていただくものです。

(質問)

- ・ ARスポットは、日中でも撮影できるのでしょうか。それとも、夜だけになるのでしょうか。

(観光振興監)

- ・ 各店舗に設置しているARスポットについては、日中の開店時間から利用可能ですが、イベント会場だけは、「カムイコオリパク」のイベント開催時間を中心とし、午後7時～9時の間だけ、ARスポットを開放することになっております。イベント会場が湖の上のため、安全管理上、午後7時～9時だけに設定させていただいております。なお、各店舗のARスポットは、夜も利用可能です。

(質問)

- ・ ARスポットの原画は、以前ありましたアイヌの勇者のものとは別のものでしょうか。

(観光振興監)

- ・ 刃牙の原画が中心になると聞いております。アイヌラックルのものもありますが、いただいていた原画を中心に出していくということです。

(質問)

- ・ 日本製紙との協議の場を、1月中旬に行うということでしたが、日時は決まりましたでしょうか。また、どのような内容を協議したいのかをお伺いしたいと思います。

(市長)

- ・ 協議については、1月中旬ぐらいに行っていく形で、打ち合わせをしております。この協議は、公開という形ではなく、実務的に進めていくものとなりますので、日時や内容などの報告の在り方についても、ご相談をさせていただいているところです。私も二度、日本製紙の社長に要請をさせていただいており、新聞用紙の生産については、予定どおり停止をしていきたいと、お話をいただいているところです。私どもといたしましては、時間的なことも含めながら、どのような形で何が出来るといったところを、一体となってお話をさせていただいているところです。今まで、日本製紙が検討されてきた項目等についても、お伺いしているところでもありますので、あとは私どもの方で、このようなことは可能であるか等について、提示しながら進めていきたいと考えております。社員の方々にいたしましても、8月までという状況で、大変な状況であるということも承知しております。同様に、本市にとりましても、関連を含めてであります。非常に大きな影響があるということも踏まえておりますので、具体的にどのような形が出来るのかということ、早期に示していけるように、協議をスタートさせていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 現段階では、具体的な内容までは、詰まっていない状況ということでしょうか。

(市長)

- ・ 今、相談している最中です。これは、北海道にもご相談をさせていただいております。スケジュール的には、今月中旬に協議をしていくということで、双方が納得して準備を進めているということです。

(質問)

- ・ 基本的には、その都度、このようなことを話し合いましたということは、オープンにしないということでしょうか。

(市長)

- ・ どこまでお伝えすることが出来るかということになりますが、基本は、そのような形でご理解をいただきたいと思います。ただ、そのまま見えない形で進めていくことも、困ると思いますので、しっかりと相談していきながら、お伝え出来るところについては、発信していきたいと考えております。

(質問)

- ・ 首都圏で、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が出るといったこともあります。日本製紙との協議の仕方として、これまでは市長が東京に行かれておりましたが、往来を自粛しなければいけない形になりますけれども、そのことについての考え方はいかがでしょうか。

(市長)

- ・ 実際に色々なお話をいたしますので、行く場合もあれば、来ていただく場合もあります。この時代ですから、リモートの活用もあると思います。協議の場所については、実務的なお話をしていくものでありますので、状況を踏まえながら行っていきたく思っております。まずはしっかりと停滞させることなく、話をしていかなければいけないと思っておりますので、感染防止対策を行いながら対応していくことになると考えております。

(質問)

- ・ 日本製紙との実務的な協議の場は、今のところオープンにするお考えは無いということですが、我々も市民の方々も、市が行っていることをもっと知りたいという声があります。然るべきタイミングで、協議についての情報提供、情報公開をしていくべきであると思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 必要なことは、しっかりと伝えていかなければいけないと考えております。いつ、どのように、このような項目の話をしましたということを、オープンにするかということについては、協議の中で可能な部分について日本製紙の方々とも相談をし、情報を出していくような形をとっていきたくと考えております。私どもが要請に行く際には、このような形で要請に行くということを会社の方にお話をしながら進めてきました。今後は、実務的なお話をしていくということですので、当然、本当に多くの関係者の方々がいらっしゃいますから、その方々が色々不安に思っていること等を踏まえながら、物事をしっかりと発信していくことが重要であると思っております。私どもは実務的協議を進めていき、必要な情報を出していきたいという考え方でありますので、基本は実務的な協議の場については、クローズで行っていきたくと考えております。

(質問)

- ・ 日本製紙の8月の生産停止は変えられないと言われている中で、これから協議をしていくということですが、市長の時間軸として、いつまでに、どのような形

になっているのでしょうか。また、日本製紙の方では、社員の方々に対し配置先等の説明を市の協議とは関係なく個別に行っていくのか、それとも、その受け皿に市や地元が関わって、日本製紙が社員に伝えていく形となるものであるのか、どのように進めるのでしょうか。

(市長)

- ・ 8月に生産停止という基本的な方針を示されておりますが、その中で、どのような決め方を行っていくのかということは、年度内の3月末までにと考えております。最終的に会社は、総会等が5、6月にありますので、そのようなタイミングで考えております。まず、年度内に、どのようなところまで進めていけるのかというところで、精力的に協議、また提案も含め、進めていきたいと考えているところです。これが一つの時間軸というタイミングになってくると思っております。併せまして、会社の中でどのような形で進めていくのかということですが、ここについても出来るだけ、この地域の中に雇用する方々を確保していきたいということを、お話ししているところです。電力事業につきましては、50名程度ということでありましたが、更にどのようなことが出来るのか、色々な相談のお話もいただいているところでもあります。この度の協議並びに会社の方がどのように進めていくのかということは、連動しているものと受け止めているところです。そこにつきましても、実務的な協議の中でお話をしていきながら、進めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 事業の撤退については、まだ再考を求めるスタンスであると思うのですが、市は、どこかのタイミングで、そこから違う形であるということをお話しなければいけないと思っております。地域のPTAの方々からお話を聞いた時に、足場が固まらなくて苦しいという言葉が非常に印象に残っております。そこにリンクすることもあり、市は撤退を受け入れていないので、従業員や関係者に希望を持たせつつ進んでいることになるのですが、最終的に希望を持っていても無理であるということもあり得るとなると、やはり、そこに線を引く必要があると思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

(市長)

- ・ どのような形で考えていくのかということになると思っております。会社の方からも、出来るだけ多くの社員の方々を釧路に残していきたいというお話をいただいているところです。実際、社員の方々の多くが、持ち家を釧路に持っておりまして、社宅から持ち家に替えてきた背景もあるといったお話もいただいているところです。年度内が一つの時間軸という形で、その次に総会がある旨のお話をさせていただきましたが、会社としてどのように進めていくのかということも、協議の中でお話をしていきながら進めていく形になると思います。

(質問)

- ・ 撤退再考のお考えは、まだ引き続き持っているということでしょうか。

(市長)

- ・ 私どもは、基本的には撤退の再考を求めるという形で要請をしております。会社側は、新聞用紙の生産停止を予定どおり行っていきたいという状況です。そこから先については、まだプランニングが出来ていない状況ですので、実務的な協議をスタートさせ、精力的にどのような形が出来るのかということを表していきたいと考えております。

(質問)

- ・ 日本製紙の撤退再考についてですが、段階として、撤退そのものをやめて欲しいと再考を要請する段階と、撤退を受け入れて、その後の条件闘争として、これぐらい残して欲しいといった交渉に入っていく段階があると思うのですが、まだ、市としては、撤退そのものをやめて欲しいという交渉を続けていくのでしょうか。

(市長)

- ・ 私がお伝えしているのは、会社には会社の都合や経営判断があるということです。我々にとっても会社との共存共栄で、地域の中で色々とやってきたこともあります。そのような状況の中で、どのようなことを会社にとっても、地域にとっても出来るのかということです。その上で、8月までの時間の短さでは、どのようなことが出来るかということがあります。また、発電事業以外は、まだプランニングがない状況であること等も含め、どのようなことが残せるのかということです。様々な形の中で、業態等が変わっていくことがあります。当然、企業の中でも、どのようなところを特化することで効率が上がり、そのようなことを踏まえながら進めていくといったことがあります。今までの日本製紙釧路工場の100年の歴史を踏まえた中で、地域と共存共栄してきたことや、新聞用紙の生産が下がっていることも踏まえた中で、どのようなことを釧路の中で進めていくことが出来るかといったお話をさせていただいているところです。このことから、撤退を受け入れたから、次は条件闘争の交渉のための何かをするということではありません。やはり、日本製紙さんにも頑張ってもらいたいと思っておりますし、地域にとって、今まで進めてきた歴史も踏まえた中で、一緒にという立ち位置でお話をさせていただいているところです。併せて、跡地の問題等、色々なことが出てきます。会社の経営判断は重たいものと思っておりますし、我々も今まで取り組んできたバランスシートに載っていない様々なことの重さを踏まえた形で、お話を進めさせていただいております。

(質問)

- ・ 当初おっしゃってございました再考については、我々や市民も撤退をやめて、現状をフルサイズで残していただきたいという印象を持っている人が多いと思います。現在おっしゃっているのは、現状維持ということではなく、例えば、発展的な撤退になるかも知れないですし、新聞用紙ではなく、今、需要が伸びている段ボールを作るといったものは、一つのアイデアであると思っておりますし、そのような次のスタイルと一緒に練る作業をしたいということでしょうか。現状、日本製紙が言っているプランでの撤退については、再考をし、取り止めていただきたいという認識で良いのでしょうか。

(市長)

- ・ 新聞用紙の生産を続けてくださいとは言えないです。ただ、従業員や関連会社等の600人の方々をそのまま確保するという形が、どのように出来るかということです。雇用ですから、出来るだけ確保したいですし、それを進めていくためには、8月までというのが、あまりに時間的に短いということもあります。そこから先のプランニングも、電力事業が1つという形ですから、色々と重たい経営判断ではありますが、そのところの再考ということでもあります。社長の方からは、今までも会社の側で、どのようなことが出来るかについて、色々と検討してきたとお話をいただいておりますし、その検討内容等についても、私どもにも示していただいております。当初の予定どおり、1月中旬の協議に向けて、どのようなことが出来るのか北海道とも相談していきながら、具体の協議に入っていきたい

と思っております。今までは、そのようなプランの無い中での要請でありましたが、より実務的な話を進めていこうという考えです。

(質問)

- ・ 1月中旬の日本製紙との実務協議には、市長は基本的には入らない形で、現場の部長レベルとなるのでしょうか。それとも、最初だけ市長もオンライン等で協議に入るのでしょうか。

(市長)

- ・ 実務協議については、まだメンバー的には決めておりませんが、まずは、副市長が出席する形で始めていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 今後は、完全に実務の協議になっていくということですが、我々報道も市民も、協議の経過を知りたいので、どのようになっているのか、教えていただきたいと思えます。

(市長)

- ・ どのようになっているのかという不安感があるということは、おっしゃるとおりだと思っておりますので、どのようなどころまで出していけるのかについても相談していきたいと思えます。

(質問)

- ・ 明日、1都3県に、緊急事態宣言が出されるという話が出ており、特に釧路では、飲食関係や宿泊関係等に影響が出ると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 釧路のみならず、全国的に影響が出てくるものと考えております。このような形で、国が決定されたことでありますので、Go To トラベルの停止期間の延期等もやむを得ないものと考えております。緊急事態宣言の対象の地域が決まっているから、他の所は大丈夫ですといった形には、なかなかないと思えます。本来であれば、対象地域から外れたところは、その地域の中での移動や、色々なことを行いながら頑張っていましようという形になればいいのですが、そのとおりにはいかない状況です。また、変異種といった新たなウイルスのことも踏まえながらの対応となります。鎖国のようなことができる訳ではありませんので、地域においても非常に苦慮している状況です。飲食店も含め、様々な観光産業についても影響はありますので、状況等をお聞きしながら、どのような形ができるのかについて、さらに検討が必要であると考えております。

(質問)

- ・ 釧路市と帯広市の人口について、昨年11月末が最新の情報で差が200人を切り、間もなく逆転が見えてきた感じですが、データを見てみると、帯広市に追い抜かれるというよりは、帯広市も人口は減っているのですが、減少が緩やかであり、釧路の方がより減っているような感じとなっております。間もなく逆転する見通しになったということで、その背景にはどのような要因があるとお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 人口減少のことについては、日本全体が人口減少でありますので、私が市長に就任した時から、しっかりと対峙をしていきたいということで、まち・ひと・しご

と創生総合戦略もそうではありますが、この人口減少社会をどのような形にするのかということが、大きな課題であるといった背景があります。議会や各種様々な場面でもお話をさせていただいており、一昨年、苫小牧市に人口が抜かれた際もそうでありましたが、人口減少がいつから始まったのかということを示させていただいており、釧路市の場合は、1981年（昭和56年）に人口のピークが来て、それから下がってきております。帯広市の場合は、2000年（平成12年）が人口のピークで、それから下がってきております。苫小牧市の場合は、2012年（平成24年）が人口のピークで、それから下がってきているという厳然たる事実があります。そこのところと何の関係してくるのかということで、経済力といった地域の産業ベースと大きな関係があるというお話をさせていただいておりました。あわせて、人口減少を解消していくためには、少子化を解消していく部分が出されてきたところではありますが、地方におきましては、少子化はもちろんありますが、もう一つ社会減があると考えております。進学というものはありますが、若い世代が働くところがないということで、地方を出て行き、戻って来ないという二つの要素があると考えております。日本全体で少子化に取り組んでいる状況の中で、もちろんそこも行いながら、力を入れていくのは、社会減の減少です。地域の中で働く場所を構築しながら進めていくことが、人口減少の対応策であるといったお話をさせていただきながら取り組んできたところです。現在の人口減少は、自然減が多くなっており、社会減は1,800人から2,000人ぐらいであったところが、600人ぐらいで推移してきているということも、議会も含め、示させていただいているところです。このようなことをしっかりと行っていくことが、人口減少社会の歯止めとして結びついてくるであろうと考えております。今、行ったからすぐに反映されるという話ではないのですが、このような形で取り組んできておりますので、しっかり続けていくことが重要であると思っております。その上で、順番としては、当然、差ができて、何番、何番となるのですが、ここはまさに一つひとつの道のりの中の、一つの現実であると捉えているところです。市民の方々は、やはり、今まで4位であったのに、5位、6位となった部分のイメージはあると思っております。ただ、そこについては、一喜一憂できるものではないですから、今、取り組んでいる社会減について、少しでもそこを減らし、何とかプラスにできるような形にし、自然減に対しては、少子化対策をしっかりと行っていきながら、頑張っていきたいと考えております。

（質問）

- ・ 人口減少の背景については、どのようにお考えでしょうか。

（市長）

- ・ 経済とリンクしていると考えております。1981年（昭和56年）が人口のピークとなっていますから、200海里の操業が行われていた水揚げ等を踏まえながら、石炭、水産、紙・パルプといった基幹産業がありました。まさに昭和50年代からスタートとなっております。石炭については、平成13年にポスト8次石炭政策が終了しております。税収の部分を見てみると、例えば、苫小牧市の税収と交付税の関係でいいますと、税収の方が高いです。つまり、企業分も含めながら進めてきているといった産業構造です。例えば、北見市については、人口のピークは、1997年（平成9年）です。今はサロマ湖等の水産業ももちろんありますが、農業産出額等を考えてみても、オホーツクの方では、1,900億円ぐらいであると思えます。釧路地域の農業産出額は、840億円ぐらいです。水産の水揚額は、漁獲している魚種のこともありますが、3年間100億円を切っている状況です。このような状況ではありますが、水産加工については、頑張っ

ているところであります。経済や雇用と大きくリンクしているものであると
思っておりますので、地域の中での経済の活性化に取り組んでいくことが重要
であると考えているところです。社会減は、昨年の数字はまだ出ていないの
ですが、その前の年が800人ぐらいで、そのさらに前の年が600人でした。
それより前については、1,800人や2,000人でありました。地方から中央
に人材を輩出する仕組みでありましたが、その構造的なところをクリアして
いかなければ、本当の人口減少対策にはならないものであるとお話をさ
せていただいております。